

# 琉球大学学術リポジトリ

[論文]

「環境」をテーマとした『総合的な学習の時間』の  
授業実践：地理教育の手法を用いて

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄地理学会 公開日: 2018-11-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊禮, 良栄 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017734">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017734</a>

## 「環境」をテーマとした『総合的な学習の時間』の授業実践

——地理教育の手法を用いて——

伊 禮 良 栄 (沖縄県立那覇西高等学校)

### I はじめに

学校週5日制の実施に伴い、新設された『総合的な学習の時間』が平成14(2002)年度から高等学校でも完全実施となり<sup>1)</sup>、各校とも創意工夫をこらし、各教科・科目の枠を超えた教育内容を展開することとなった。『高等学校学習指導要領(1999)』では趣旨やねらい、学習活動、名称および実施にあたっての配慮事項を定めてはいるが、具体的な指導内容は示しておらず、各校の裁量で行うとしている。筆者が担任を務めているホームルームでは1学期が「国際理解」、2学期は「環境」、3学期は「福祉」というテーマで行うこととなり、毎週金曜日の3時間目が当てられた。授業是那覇西高等学校の「総合的な学習検討委員会」が作成した指導計画や学習指導案を用いることにした。

1学期は地理歴史・公民科でよく用いられている「主題学習」の手法を用いて、「行ってみたい国」を生徒に調べさせたり、沖縄県の教育視察に訪れた外国の高校教諭を招いて外国の歴史・文化を理解させる実践を行った<sup>2)</sup>。学習指導案が十分にそろっておらず、半ば手探りの状態で取り組んだため、反省点も多く、『総合的な学習の時間』の目標を達成したとは言い難かった。

2学期はテーマが「環境」となり、これも地理教育の手法をそのまま用いて取り組めると考えた。「環境教育」は地理Bの『高等学校学習指導要領(1999)』でも「現代世界の諸課題」

の中で取り上げられているからである。「環境教育」は地理歴史科のみならず公民や理科、家庭科や保健体育科でも行われており、その中で地理歴史科の環境教育と他の教科の環境教育との違いをどのようにして出すか、さらに『総合的な学習の時間』でどう区別するかも明らかにしていかなければならないなど、多くの課題が残った。

本論では『総合的な学習の時間』の授業はこうあった方がよいという結論を出すことよりも、地理Bで行う「環境教育」が『総合的な学習の時間』でも有効かどうかを検証することにする。授業実践では、総合学習検討委員会が作成した指導案にもとづき、様々な環境についての諸問題を生徒に選択させ、グループで調べさせるという、主題学習を用いた。仮説等も立てて実践すべきであったが、全く未知の領域であり、思いついたものから始めなければならない場面も数多くあり、1学期の『総合的な学習の時間』の授業実践と同様、必ずしも成功したとは言えない。

しかし、『総合的な学習の時間』に地理教育の手法が有効か否かを判断する良い機会になったことは自負できる。全国的に「環境」への関心が高まっており、今後の『総合的な学習の時間』や環境教育に地理教育の手法をどう取り入れたらよいかを考える出発点となることを期待して、授業実践例を挙げ、授業実践を行うための方法や意義等について若干の考察を行う。

## II 那覇西高等学校における 『総合的な学習の時間』

筆者が勤務する那覇西高等学校は那覇市金城にあり、学校の周辺には金城公園やガジャンピラ公園、金城小学校や金城中学校、那覇市立教育研究所などの教育施設や大型ショッピングセンターがある。金城地区は沖縄戦終了後、米軍の住宅地となったが、1980（昭和55）年に全面返還され、土地区画整理事業が行われた。金城地区の人口は返還後急増し現在に至っている。那覇空港が近くに位置し、多くの航空機が離発着する。

那覇西高等学校には普通科、国際人文科、体育科の3つの学科がある。国際人文科と体育科は全県区で、前者は「世界で活躍する国際人の育成」を目標に特に外国語教育に力が入れられ、後者は日本の体育界の第一線で活躍できる選手や指導者の育成を目標におき、全県から注目されている。

学校週5日制が2002（平成14）年度から実施されるのに伴い、『総合的な学習の時間』は高等学校でも完全実施となった。『総合的な学習の時間』の内容について、中央教育審議会第一次答申（1996）は、「ゆとり」の中で自ら考え、主体的に判断することができる能力、すなわち「生きる力」の育成を基本とし、自己の在り方生き方を考えることができるものとする」としている。『高等学校学習指導要領（1999）』では趣旨やねらい、学習活動・名称および実施に当たっての配慮事項を定めているが、具体的な指導内容は示していない。このことは各学校で創意工夫して上記の「生きる力」を身につけさせるようにすること、言い換えればどのように実施するかは各校の判断であることを示している。そこで、那覇西高等学校では『総合的な学習の時間』を実践する前に、2001（平成13）年度から県外高等学校へ出向き、実践事例の収

集に努めてきた。収集した県外高等学校での実践学習を参考にして、『総合的な学習の時間』を週に1時間設けることとし、内容は「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉」、「健康」、「進路」の6つのテーマが設定された。テーマごとに検討委員会が設置され、委員会が学習指導案を作成し、担任は実習の援助を行うことになった。当面は2学年の普通科を中心に『総合的な学習の時間』の授業を行い、国際人文科と体育科は独自に授業を行うこと、3学年は全クラス「進路」のテーマで授業を行うことが決められた。

## III 『総合的な学習の時間』の授業実践

### 1. 指導計画

筆者が担任を務める2年1組（普通科）には「環境」のテーマが与えられ、授業実践計画を第1表のように設定した。概ねこの計画に沿って実践したが、ゴミ問題にとらわれず、様々な環境問題を生徒に調べさせ発表させる形式をとったので、2002年10月11日（金）～11月1日（金）の期間は各班に環境問題について調べたいものを考えさせる期間とした。インターネットでの資料収集は情報のクラスと授業時間が重なるため、地理Bの授業と入れ替えて1時間だけ行った。インターネットを使用した際に生徒に配布したワークシートを第1図に示す。2002年12月17日に「総合学習成果発表会」を行うこととなったため、充実した内容にすることも求められた。

### 2. 発表会に向けての取り組み

生徒を7つの班に分け、各班に「環境」をテーマにどのようなことを調べて発表したいのかを話し合わせた結果、第2表のように決定した。環境問題は膨大で、すべてを調べることは不可能である。生徒にもできるだけテーマをしぼり、具体的なことをあげるように指導した。10月後半以降は、学校図書館での作業を多くした。

「環境」をテーマとした『総合的な学習の時間』の授業実践

第1表 『総合的な学習の時間』授業実践計画<sup>3)</sup>

実施日	担当者	授業展開	備考
9月13日(金)	担任 検討委員会	1 総合的な学習の意義・導入 2 環境問題への意識高揚 3 世界の環境問題・ゴミ問題 のグローバル化 4 今学期の活動の説明	新聞切り抜き等資料活用
9月20日(金)	担任	1 ゴミ問題についての テーマ設定 2 班分け	
9月27日(金)	担任	課題学習『ゴミ問題って何だろう』	ビデオ視聴『発掘あるある 大辞典』(フジテレビ) より
10月11日(金)	担任	テーマ設定(各班ごとに)	学校図書館使用
10月25日(金)	担任	テーマ設定	学校図書館使用
11月1日(金)	担任	テーマ設定	学校図書館使用
11月8日(金)	担任	発表会準備	学校図書館使用
11月12日(火) 11月15日と交代	担任	インターネットでの情報収集	(第1図)参照
11月22日(金)	担任	発表会準備	学校図書館使用
11月29日(金)	担任	発表会準備	学校図書館使用
12月6日(金)	担任	学級発表会	視聴覚教室使用

予備日 12月13日, 総合学習全体発表会 12月17日

### 3. 実践の経過

なかなかテーマを決められない班もあり、ようやく11月に入って決定した班もあった。学校図書館には資料が少なく、調べさせるのに苦労したが、入手した資料を用いてどの班も一生懸命取り組んでいた。学級発表会での発表の形式は、3つの班がビデオ収録形式、残りの班が学級新聞形式で行うこととなった。資料を収集し、研究成果を出すまでに早く終わった班、12月までかかった班とさまざまであった。

### 4. 学級発表会

2002年12月13日(金)に学級での発表会を行った。各班の作品を第2図に示す。発表会では準備不十分な班やすぐに発表が終わった班もあり、事前指導の重要性を痛感した。7つの班の研究内容で優れたものを1つ選び、学級代表として12月17日(火)の総合学習成果発表会に参加させることにした。生徒の挙手で「だれにでもできるゴミダイエット——廃油石けんづくり——」(ビデオ収録)をテーマにした班を学級代表に決定した。

総 合 学 習

11月12日(火){15日(金)の振り替え}

今日の作業

インターネットから調べる方法(検索システムはY A H O O ! J A P A Nを使用)

1 今日使用するリンク

エ コ ラ イ フ ガ イ ド

<http://www.eic.or.jp/ecolife/>

平成14年版 子ども環境白書

<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/kodomo/h14/j0.html>

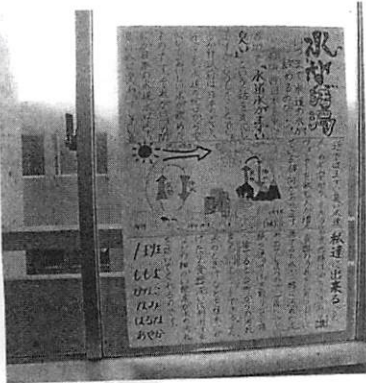
2 印刷の方法

第1図 インターネットを使用しての情報収集で使用したワークシート(2002年11月12日)

第2表 各班の構成と研究テーマ

	人 数	研究のテーマ
1 班	女子5名	水質汚濁
2 班	女子5名	牛乳パックのリサイクル教室
3 班	男子8名	だれでもできるゴミダイエット
4 班	男子5名	人体と環境を破壊するダイオキシン
5 班	女子7名	サンゴ礁
6 班	女子5名	環境ホルモンについて
7 班	女子4名	ゴミのリサイクルについて

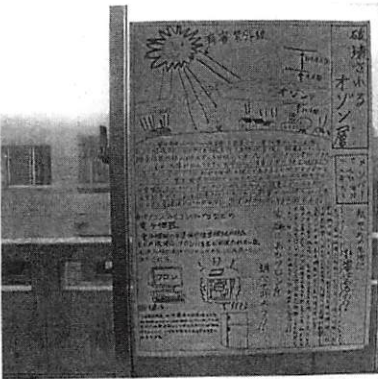
「環境」をテーマとした『総合的な学習の時間』の授業実践



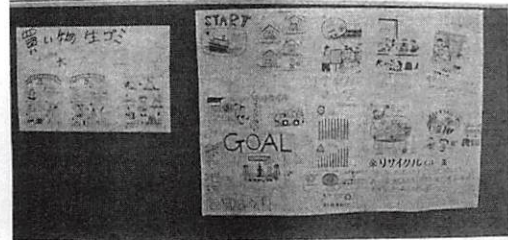
1班「水質汚濁」



6班「環境ホルモンについて」



4班「人体と環境を破壊するダイオキシン」



7班「ゴミのリサイクルについて」



5班「サンゴ礁」

第2図 各班の作品

## 5. 生徒の感想

学級発表会が終わった後、生徒に無記名で感想を書かせた。

### 1) 良かったという意見

①図書館などで色々調べられておもしろかった。

②2学期は1学期に比べ、総合学習らしい授業ができ、1年生の前でもみんな上手な発表ができたと思いました。3学期もがんばります。

③オゾンについてよくわかり、また今後どのように行動すればよいのわかりました。

④「環境ホルモン」について調べていくうちに、現在の環境も知れてよかったです。発表する時は緊張したけど、楽しかったと思います。

⑤総合学習の時間は限られていて、時間内に調べたりまとめたりするのは大変だったけど、なんとか最後までできて良かったと思います。環境にもっと興味をもち、いつでも心がけられるようにしたいです。

### 2) 良くなかったという意見

①総合学習はあまり楽しくなかった。3学期はもっとちゃんとしてやろうと思います。

②今年初めての「総合の時間」なのであまりスムーズに事が進まなかったと思う。「総合の時間」のある意味がよくわからない。

③総合と地理を混ぜないでほしい。

### 3) パソコンをもっと使いたかったという意見

①他のクラスみたいにパソコンとかがつってやりたかった。

②紙にまとめるよりもパソコンにまとめたかった。

## IV おわりに——反省点と今後の課題

地理Bの学習指導要領でうたわれている「情報の活用と作業的、体験的な学習」を用い取り組んだ結果、環境に関心をもつようになったという声も多く聞かれた。地理Bの授業でも地球的規模の環境問題を取り上げたが、今回の実践

は扱った範囲が「身近な環境問題から」であったので、環境問題がよりわかりやすくなり、同時に生徒自らも解決していくために動かなければならないという思いを強くしたようであった。反面、あまり面白くなかったという意見や厳しい意見もあった。

地理Bは環境問題を考える上で中心となりうる教科であり、『総合的な学習の時間』でも地理教育の手法は有効であると言えるが、「地理と同じ授業でつまらなかった」という意見は真摯に受けとめなければならない。取り扱う範囲が広い『総合的な学習の時間』であるが、主題学習などの手法を用いる場合、地理Bとの区別をつけることが大事であると考え、どの教科の授業でも特に重要なのが「導入」であり、意外性があることや新鮮さが常に求められるからである。これと同じことが『総合的な学習の時間』にも求められるのではないだろうか。

「環境」というテーマのどのような展開をもって地理Bとの区別をつけるかは今回明らかにできなかった。問題提起という形でまとめた。パワーポイントを生徒に使用させるなど、パソコンを十二分に活用した研究をさせることもできなかった。インターネットも使用させた。情報の授業と重なってしまい、1回だけの使用にとどまった。パソコンをもっと使いたかったという生徒の声もあり筆者はパソコンに習熟し、生徒に操作方法を指導できる力を身につけておかなければならなかったと反省している。「コンピュータを用いて発表したかった」という意見も教師のパソコン操作の熟達や指導教諭の事前学習の重要性を示唆している。

『総合的な学習の時間』は教師一人だけで実践するとどうしても内容が教科と同じになってしまう。生徒の自主性に頼るあまり、内容が軽くなってしまう懸念があることは否めない。『総合的な学習の時間』を教科の枠を超えた内容や意外性をもつ内容にするには全教師が一体

となって指導したり、地域の人びとなど、外部の協力を得る事も重要であろう。

『総合的な学習の時間』は教師にとって「かなり難しい教科」であるが、陳腐化させないためにも教職員全体の研究・協力が必要不可欠であると同時に、「各学校が創意・工夫できるか試されている教科」であるとも言える。

実施計画や学習指導案作成、実習の際に協力していただいた本校の「総合的な学習検討委員会（環境班）」の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

#### 注

1) 学習指導要領では高等学校での『総合的な学習の時間』の完全実施年度を平成15年4月からと定めているが、沖縄県ではこれに先だって平成14年4

月から全高等学校で実施している。

- 2) インドネシアから2名来校。日本の教育視察のため、5月14日～5月17日の日程で沖縄を訪れ、17日（金）に生徒からのインドネシアについての質問に答えるという形式で行った。
- 3) 総合学習検討委員会「環境班」が作成したものを修正した。

#### 文 献

- 文部省（1999）：『高等学校学習指導要領解説』（地理歴史編）実教出版，2，237，257-259.
- 文部省（1999）：『高等学校学習指導要領解説』（総則編）東山書房，1：1-5，10-12，3：129-144.
- 工藤文三，山口 満（2000）：改訂『高等学校学習指導要領の展開』|総則編|明治図書，II，29-31，III，64-70，IV，144-150.